

<特集「受動表現」>

ヒンディー語の受動表現 Passive Expression in Hindi

小林 颯
Hayato Kobayashi

東京外国語大学言語文化学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集補遺「受動表現」(『語学研究所論集』第27号, 2022, 東京外国語大学) に寄与するものである。本稿の目的は10個のアンケート項目に対するヒンディー語のデータを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Passive Expression in Hindi’ (*Journal of the Institute of Language Research* 27, 2022, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Hindi data for the question of 10 phrases.

キーワード: ヒンディー語, 受動表現

Keywords: Hindi, Passive Expression

1. はじめに

本稿のデータはインドのデリー連邦直轄地出身のヒンディー語母語話者の方(1974年生)にいただいたものである。データは全て対象の日本語に対応する英語文¹をヒンディー語に訳していただく形式で得た。そのため、一部データには英語文の影響が少なからずみられる点に注意されたい。なお、{ } は異なった語彙などを用いた別個の表現をあげたものである。

ヒンディー語の受動表現は主に「完了分詞² + जाना *jānā*³」という文法的手段によって表される。受動態の概要について、以下に古賀・高橋(2006: x x i)の記述を引用する。なお、引用文中のデーヴァナーガリー文字の転写は筆者によるものである。

一般に動作の主体を明示する必要がないとき、あるいは主体を特定することができないときには、受動態が用いられる。他動詞の完了分詞に動詞 **जाना *jānā*** が加えられる。目的語が後置詞 **को *ko*** を従えると、完了分詞と動詞 **जाना *jānā*** の活用形は男性・単数形となる。動作の主体を明示する場合には、行為者は **से *se*** あるいは **के द्वारा *ke dvārā*** などの句によって表現される。

(以上、古賀・高橋(2006: x x i)より引用)



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 英語文は風間(2020)のものを使用した。

² 動詞語幹に完了を示す接辞を加えて示される。接辞は性・数に応じて次のように活用する: *-ā*(男性・単数), *-e*(男性・複数), *-ī*(女性・単数), *-ī*(女性・複数)。

³ *jānā* は本動詞としては「行く」の意で用いられる。完了分詞は不規則変化で、動詞語幹に *ga-*をとる。

2. 例文の分析

本節では、例文のヒンディー語訳を提示し、分析する。以下、例文中の太字は受動表現が用いられている箇所を示す。

(1) 【直接受身】

「AはBに叩かれた。」

A	B	द्वारा	पीटा	गया
A	B	dvārā	pīṭ-Ø-ā	ga·y-ā
A	B	～によって	叩く -PRF-M.SG	GO.PRF-M.SG

(2) 【持ち主の受身, 体の部分】

「AはBに足を踏まれた。」

B	द्वारा	A	के	पैर	पर	कदम
B	dvārā	A	k-e	pair	par	kadam
B	～によって	A	～の-M.SG.OBL	足.M.SG.OBL	～上に	足.M.SG.NOM

रखा गया |
 rakh-Ø-ā ga·y-ā
 置く -PRF-M.SG GO.PRF-M.SG

{ B	ने	अपना	पैर	A	के	कदम	पर
B	ne	apn-ā	pair	A	k-e	kadam	par
B	ERG	自分の-M.SG.NOM	足.M.SG.NOM	A	～の-M.SG.OBL	足.M.SG.OBL	～の上に

रखा | }
 rakh-Ø-ā
 置く -PRF-M.SG

{ B	द्वारा	A	के	कदम	पर	पैर
B	dvārā	A	k-e	kadam	par	pair
B	～によって	A	～の-M.SG.OBL	足.M.SG.OBL	～の上に	足.M.SG.NOM

रखा गया | }
 rakh-Ø-ā ga·y-ā
 置く -PRF-M.SG GO.PRF-M.SG

「～で…される」という表現は以下のようなになる.

「AはBに殴られた。」

A	को	B	ने	अपने	बाजू	द्वारा	मारा
A	ko	B	ne	apn-e	bājū	dvārā	mār-Ø-ā
A	OBJ	B	ERG	自分の-M.SG.OBL	腕.M.SG.OBL	～によって	叩く-PRF-M.SG

上記の文⁴は能動態によって表されたものだが, 受動態を用いて表すと以下のようなになる.

{	A	B	के	बाजू	द्वारा	मारा	गया }
	A	B	k-e	bājū	dvārā	mār-Ø-ā	ga·y-ā
	A	B	～の-M.SG.OBL	腕.M.SG.OBL	～によって	叩く-PRF-M.SG	GO.PRF-M.SG

(3) 【持ち主の受身, 持ち物】

「AはBに財布を盗まれた。」

A	का	बटुआ	B	द्वारा	चुराया	गया
A	k-ā	baṭuā	B	dvārā	curā·y-Ø-ā	ga·y-ā
A	～の-M.SG	財布.M.SG.NOM	B	～によって	盗む-PRF-M.SG	GO.PRF-M.SG

{	A	का	अपना	बटुआ	B	द्वारा	चुरा	लिया
	A	k-ā	apn-ā	baṭuā	B	dvārā	curā	li·y-ā
	A	～の-M.SG	自分の-M.SG.NOM	財布.M.SG.NOM	B	～によって	盗む	TAKE.PRF-M.SG
	गया	था }						
	ga·y-ā	th-ā						
	GO.PRF-M.SG	COP.PST-M.SG						

curā liyā は「語幹 + *lenā*⁵」という形式で, 再帰的な動作や完遂など, 語幹の動詞に様々な意味を加える.

上記の文はいずれも直訳すると「Aの財布がBに盗まれた」となる(後述する(7)も参照されたい). 今回いただいたデータには日本語の「AはBに財布を盗まれた」のような表現はなかった. これは提示した英語文⁶による影響の可能性があり, 日本語に対応する表現の可否を判断するにはさらなる調査が求

⁴ ヒンディー語は分裂能格性をもつ. ヒンディー語では, 完了相のみ能格構文をとり, 他動詞の主語 (Agent) が能格 *ne* をとる.

⁵ *lenā* は本動詞としては「取る」の意で用いられる. 完了分詞は不規則変化で, 動詞語幹に *li-* をとる.

⁶ “A’s wallet was stolen by B.”, “A had his wallet stolen by B.”

められる。

(4) 【自動詞からの間接受身】

「昨夜の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。」

पिछली	रात्रि	बच्ची	रोयी	थी,	इसलिए	मैं	बिल्कुल
pichl-ī	rātri	baccī	ro·y-Ø-ī	th-ī	islie	maĩ	bilkul
前の-F.OBL	夜.F.SG.OBL	子ども.F.SG.NOM	泣く-PRF-F.SG	COP.PST-F	それで	1SG.NOM	全く

न	सो	सका
na	so	sak-Ø-ā
NEG	眠る	POT-PRF-M.SG

今回のデータでは間接受身の文は得られなかったが、こちらの例も先述した通り提示した英語文⁷の影響の可能性はある。

(5) 【モノ主語受身，一回的】

「新しいビルが (A によって) 建てられた。」

एक	नये	भवन	{इमारत}	का	निर्माण	(A द्वारा)
ek	na·y-e	bhavan	imārat	k-ā	nirmāṇ	A dvārā
1	新しい-M.OBL	建物.M.SG.OBL	建物.F.SG.OBL	～の-M.SG	建設.M.SG.NOM	A ～によって

किया	गया
ki·y-ā	ga·y-ā
する.PRF-M.SG	GO.PRF-M.SG

(6) 【モノ主語受身，恒常的．動作主が問題にならない場合】

「カナダではフランス語が話されている。」

कनाडा	में	फ्रेंच	बोली	जा	रही	है
kanādā	mē	phrēc	bol-Ø-ī	jā	rah-Ø-ī	h-ai
カナダ	～で	フランス語.F.SG.NOM	話す-PRF-F.SG	GO	PROG-PRF-F.SG	COP.PRS-3SG

⁷ “Last night, the baby cried. So, I couldn’t sleep at all.”

(7) 【モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される】

「財布が (A に) 盗まれた。」

बटुआ	A	द्वारा	चुरा	लिया	गया	था
batuā	A	dvārā	curā	li·y-ā	ga·y-ā	th-ā
財布.M.SG.NOM	A	～によって	盗む	TAKE.PRF-M.SG	GO.PRF-M.SG	COP.PST-M.SG

(8) 【モノ主語受身, 結果状態の叙述】

「壁に絵が掛けられている。」

दीवार	पर	एक	तस्वीर	टंगी	है
dīvār	par	ek	tasvīr	ṭāg-Ø-ī	h-ai
壁.F.SG.OBL	～に	1	絵.F.SG.NOM	掛かる-PRF-F.SG	COP.PRS-3SG

{ एक तस्वीर दीवार पर है | }

ek	tasvīr	dīvār	par	h-ai
1	絵.F.SG.NOM	壁.F.SG.OBL	～に	ある.PRS-3SG

{ वहाँ दीवार पर एक तस्वीर है | }

vahā	dīvār	par	ek	tasvīr	h-ai
そこに	壁.F.SG.OBL	～に	1	絵.F.SG.NOM	ある.PRS-3SG

いずれの例でも受動表現は用いられておらず, 全て能動態で示されている. しかしながら, こちらの例は提示した英語文⁸は受動態である. そのため, ヒンディー語においては結果状態の叙述を表すモノ主語受身は文法的でない, あるいは好まれない可能性がある.

(9) 【感情述語の受身, 特に動作主のマーカ―に注目】

「A は B に / から愛されている。」

B	द्वारा	A	को	प्यार	किया	जाता	है
B	dvārā	A	ko	pyār	ki·y-ā	jā-t-ā	h-ai
B	～によって	A	OBJ	愛情.M.SG.NOM	する.PRF-M.SG	GO-IMPF-M.SG	COP.PRS-3SG

(10) 【伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカ―に注目】

「A は B に / から「…」と言われた。」

B	ने	कहा	“…”	A	को
B	ne	kah-Ø-ā		A	ko
B	ERG	言う-PRF-M.SG		A	OBJ

⁸ “?A picture is (being) hung on the wall.”

今回のデータでは伝達動詞の受身の文は得られなかったが、こちらの例も先述した通り提示した英語文⁹の影響の可能性はある。

(10-a) 「AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。」

データなし。

(10-b) 「BさんがAさんを読んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。」

B	को	A	ने	बुलाया	था,	और	अब	A	B	के
B	ko	A	ne	bulā·y-Ø-ā	th-ā	aur	ab	A	B	k-e
B	OBJ	A	ERG	呼ぶ-PRF-M.SG	COP.PST-M.SG	そして	今	A	B	～の-M.OBL

कमरे	में	है
kamr-e	mē	h-ai
部屋.M-SG.OBL	～に	COP.PRS-3SG

略号一覧

.		機能の兼担
-		接辞境界
.		わたり音挿入
1	1st person	1人称
3	3rd person	3人称
COP	copula	コピュラ
ERG	ergative	能格
F	feminine	女性
IMPF	imperfect	未完了
M	masculine	男性
NEG	negative	否定
NOM	nominative	主格
OBJ	objective	目的格
OBL	oblique	斜格
POT	potential	可能
PRF	perfect	完了
PROG	progressive	進行
PRS	present	現在
PST	past	過去
SG	singular	単数

⁹ “B said ‘...’ to A.”

参考文献

- 風間伸次郎. 2020. 「英語: 特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定, 形容詞と連体修飾複文」」『語学研究所論集』25: 139-171.
- 古賀勝郎・高橋明. 2006. 『ヒンディー語＝日本語辞典』東京: 大修館書店.

執筆者連絡先: kobayashi.hayato.t0@tufs.ac.jp

原稿受理: 2022年12月28日